

マルワリードⅡ主幹水路あと 300m に迫る

カマ堰改修、本格化

モンスーンの到来で 2 日間降雨があり、空気が洗われたように澄んできました。高山は白雪を頂き、冬の到来です。川辺は陽がかけると冷凍庫の中にいるような寒さです。雨が上がると河川水が再び減少し始めましたが、PMS の取水堰はすべて健在です。

カマ堰は時間的な余裕がなくなり、今週から週休二日制を廃して、速やかな作業態勢を取っています。この工事はカマ自治会の全面協力で職員の安全を確保しています。自治会長自ら連日現場を見に来て、並々ならぬ期待を感じています。カマ郡は今や東部最大の穀倉地帯となり、パキスタンからの送還難民、アチン、クナールらの戦火と干ばつからの避難民も、「カマに行けば職にありつける」と、続々と集まっています。また、それだけの容量を備えてきているのだと思われます。

「カマが不作になるとアフガニスタンの小麦価格が上がる」とは有名な現地の言い回しで、ソルフロッド郡が壊滅状態の今、カマ郡が東部でかなり重きをなしているのは確かで、ジャララバード混乱の防波堤と見ています。限られた時間の中で、最大限の努力を傾けたいと思います。

マルワリードⅡの方は、快進撃が続いています。「総勢、突貫」の指示からわずか 3 週間、主幹水路の工事先端は 4.3 km を突破しました。12 月中に全域灌漑を目指しています。作業範囲が伸び切り、有力グループのカマ堰への転出、モク

タール現場監督の病休（心筋梗塞）らで、やや混乱がありましたが、ファヒム技師が戻ってから更に組織的に進められるようになりました。洪水防御の樹林帯造成も開始されています。

巷はほぼ無政府状態に近く、爆破、暗殺、誘拐らの事件が伝えられない日は殆どありません。それでも想像されるほど人々に動揺と混乱があるわけではありません。農村地帯では国家に代わる伝統的自治が依然として力があるからです。その秩序がある程度の農業生産、そしてそれを支える灌漑に依拠していることは誰もが否定しません。PMS のカバーするジャララバード北部がナンガラハル州の中で人口稠密地帯となり、多くの難民を吸収し得ていることは、職員たちの励みにもなっています。

実際、PMS 事務所の采配や現場監督の技術的向上は目覚ましいものがあり、最近、別人のように感じています。何が起きても彼らはどこに逃げる当てもないのです。「自分のことだけ考えるから暗くなるのだ」とはまるで合言葉のようで、たとい一時の感傷にしても、高貴な気迫を感じずにはおれません。

作業内容の報告自体は単調なものですが、この逼迫した情勢を念頭に、職員・作業員たちの努力を嗅ぎとっていただくとありがたいです。

平成 29 年 11 月 25 日 記

調節池Ⅲの現在。2017 年 11 月 20 日



調節池Ⅲの下流側を望む。蛇籠組（水路両壁）グループはライニング班の約 200m に追いついている。2017 年 11 月 20 日



調節池Ⅲの上流側。サイフォンが埋設され、河道（排水路1）を元の位置に戻す作業が進んでいる。2017年11月20日



サイフォンを下流側から見る。3週後に開通する。2017年11月23日



調整池Ⅲの送水門の現在。送水門は二つで、タラーン分水路（タラーン村全域、およびベラ村上流域）、主幹水路（主にベラ下流域）に分かれる。上部施工は水を流しながら、後でもできる。2017年11月23日



主幹水路・送水門

タラーン分水・送水門

同池の排水門の現在。基礎と下部はできている。あとは早い。送水門床と排水門床の落差は 1.1m、十分な排砂能力。2017 年 11 月 23 日



4 km地点を通過中の蛇籠組み作業。2017 年 11 月 23 日



一日 40m（蛇籠組み 40 個分・80m）は記録的な速さとはいえ、手抜きしている訳ではない。石材採取と輸送、籠編みなどの手配を、職員と事務所が手際よく準備するからだ。村の人々が元々石の扱いに慣れていることも大きな要素である。「現場が訓練所」とはこのことで、技術者だけでできないことを技術者が知るべきだ。



2.5 km地点の用水路両隅へのソイルセメント充填班。やや遅れていたが、こちらもスピードアップしている。手慣れてきたのだ。セメントの配合比は職員の現場監督が厳しく管理する。2017年11月23日



用水路の隅の仕上げが最後の工程で、でき上ると養生を兼ねて順次水を送る。2017 年 11 月 23 日



遅れていた調節池Ⅱの仕上げ工事がファヒム技師の指揮で進んでいる。下流側への送水はできないので、現在、排水路2を経由し、同池を迂回して送られている。
2017年11月23日



調節池Ⅱの川側に置かれた特別堤防。樹林帯の造成が開始された。2017 年 11 月 23 日



シーシャムの木は、ガンベリ農場で育てた1年苗が使われる。今週に大量輸送して植樹が完了する。アフガン人は植樹が好きで、面倒な指示を出すことはない。村民にとっては日常の仕事の一つである。2017年11月23日

